

《担当者名》真島 理恵 (rmashima@hoku-iryo-u.ac.jp)

【概要】

人間行動や社会現象を解釈し将来を予測するためには、個々人の心や行動の特性について知るのみならず、個人間の相互作用におけるダイナミクスについて知る必要がある。この講義では、個人の意思決定や確率判断、選好における個人のバイアスや特性に関し行動経済学で示されてきた主要な知見について学ぶとともに、集団での相互作用や意思決定場面において、どのようにして判断や行動が生じるかについて学ぶことを目的とする（一部、社会的相互作用に関する社会心理学の知見も紹介する）。

【学修目標】

個人の意思決定・確率判断・選好の性質を理解する。
集団における意思決定や行動のダイナミクスを理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	導入	オリエンテーション 人間の意思決定の性質（合理的な意思決定の難しさ）について知る	真島 理恵
2	ヒューリスティックとバイアス（1）	判断や意思決定におけるさまざまなバイアス、及び認知的資源節約方略としてのヒューリスティックについて理解する（利用可能性ヒューリスティック、後知恵バイアス、代表性ヒューリスティックなど）	真島 理恵
3	ヒューリスティックとバイアス（2）	判断や意思決定におけるさまざまなバイアス、及び認知的資源節約方略としてのヒューリスティックについて理解する（係留と調整のヒューリスティック、再認ヒューリスティック、捕球のヒューリスティック、人工知能ロボットのフレーム問題など）	真島 理恵
4	プロスペクト理論（1）	プロスペクト理論により説明されるリスク態度や意思決定傾向について理解する（参照点依存性、感応度逓減性、損失回避性など）	真島 理恵
5	プロスペクト理論（2）	プロスペクト理論により説明されるリスク態度や意思決定傾向について理解する（「すでに持っているもの」へのこだわり、「買うのに払ってもいい金額」と「売っても良い金額」の違い、現状維持バイアスなど）	真島 理恵
6	フレーミング効果と選好の形成（1）	問題の枠組みが判断に与える影響について理解する（アジア病問題・自動車保険への加入率・臓器提供への同意率に影響するもの、心の家計簿など）	真島 理恵
7	フレーミング効果と選好の形成（2）	サンクコスト効果、および人間の選好の性質について理解する（「払ってしまったコスト」にとらわれる、真ん中が選ばれる、理由に基づく選択、選択肢は多いほど良いのか、など）	真島 理恵
8	時間選好（1）	異時点間の選択における人間の性質について理解する（1）（先延ばしの心理、目先のものにとらわれる、時間割引の性質など）	真島 理恵
9	時間選好（2）	異時点間の選択における人間の性質について理解する（2）（問題解決手段としてのコミットメント、時間解釈理論、望ましさと実現可能性が判断に与える影響など）	真島 理恵
10	社会的影響過程、社会的影響過程のマクロ的帰結（1）	社会的影響過程について理解する（個人の行動に対する多数派による影響、閾値モデルなど）	真島 理恵
11	社会的影響過程、社会的影響過程のマクロ的帰結（2）	少数派による影響、及び個人間の相互影響過程が社会にもたらすマクロ的帰結について理解する（少数派による影響、社会的インパクト理論、斉一性と住み分けなど）	真島 理恵

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
12	グループの効率性(1)	グループの効率性について理解する (有能で善意の独裁者、「三人寄れば文殊の知恵」か?、プロセスの損失など)	真島 理恵
13	グループの効率性(2)	グループの効率性について理解する (グループとして課題遂行を行うメリット、グループの意思決定、多数決の操作可能性など)	真島 理恵
14	グループの効率性(3)	グループの効率性について理解する (グループにおける情報共有、隠れたプロフィール問題など)	真島 理恵
15	まとめ	授業のふりかえりとまとめ	真島 理恵

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

試験によって評価する。授業の妨げとなる受講態度は減点対象とする。

【教科書】

なし。資料を配布する。

【参考書】

亀田達也・村田光二 複雑さに挑む社会心理学: 適応エージェントとしての人間 改訂版 有斐閣 (2010)

亀田達也 合議の知を求めて グループの意思決定(認知科学モノグラフ) 日本認知科学会(編) 共立出版 (1997)

友野典男 行動経済学 経済は「感情」で動いている(光文社新書) 光文社 (2006)

【備考】

各回の授業の実施方法は実施前に周知する(状況や必要性に応じ、面接授業のみ、遠隔授業のみの実施とする可能性があり得る)。

すべての回に出席することを前提に講義を進める。授業を欠席した場合には、各自の責任において、Classroomを通じた配布資料の入手等、必要な対応をとること。

この講義は心理学部臨床心理学科の研究協力者プール・クレジットシステムを使用するため、様々な研究への参加・協力に応じて、5%を上限として最終評価への加点が行われる可能性がある(詳細については初回講義にて説明)。

< ICTの活用 >

Google Classroomを利用して授業資料の配付や諸連絡を行う。受講可能性が少しでもある学生は、初回前に本科目のClassroomに登録しておくこと(履修をとりやめた場合は後で削除可能)。

Google Formsを活用し、授業についての質問や感想を収集する。随時、Classroomでフィードバックを行う。

Google Formsを使用した理解度の確認を行う。

実施内容に応じて、Google Classroomを利用したオンデマンド型授業を適宜行う可能性がある。

【学修の準備】

授業前に前回の講義資料を精読し、内容を十分に理解しておくこと。(80分)

授業終了後、講義資料及びノートを見直し、学習内容を整理し理解を深めること。「資料を見ずに内容を他者に説明できる」ことを目標に復習を繰り返すこと。(80分)

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得するという、心理学部のディプロマ・ポリシーに適合している。